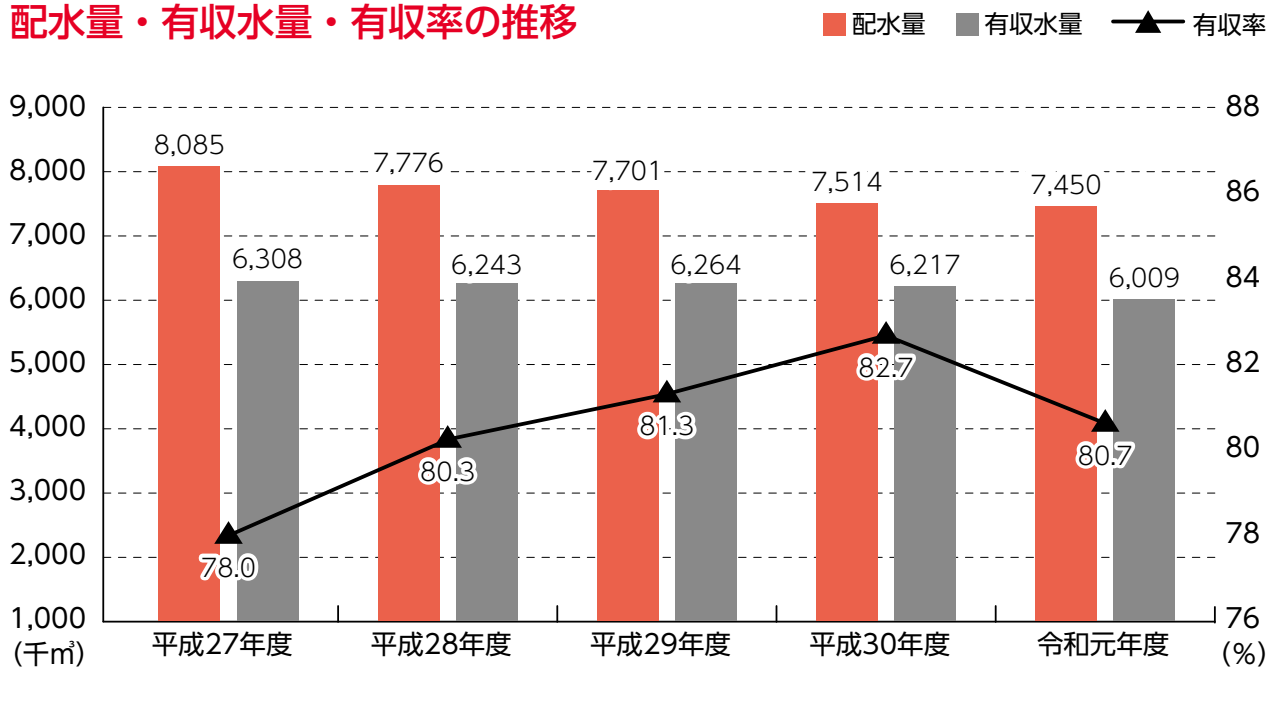


配水量・有収水量・有収率の推移



有収率

浄水場で作った水が効率的に使用者に届けられ収入につながっているかを示す指標の一つに有収率があります。有収率は、浄水場で作った水量（配水量）と水道使用者に届けられ収入になった水量（有収水量）の比率で、高いほど効率的であるといえます。

水道水を作っても使用者のみなさんに届ける前に、配水管などから漏水してしまえば無駄になってしまいます。水道課では老朽化した配水管の布設替え工事などを行うことで、配水管からの漏水などを防止し有収率の向上に努めています。

水道水の水源

市の水道は、主に三国川ダムからの放流水を水源とする、畔地浄水場から配水しています。平成23年7月新潟・福島豪雨では、激しい雨により河川の水が非常に濁ったことで浄水処理が追いつかず市内各地で大規模な断水が発生しました。その反省から、自然災害などの危機管理体制の強化と非常用水源を整備することの重要性を強く認識しています。

必要とされる非常用水源は、畔地浄水場の供用以前に旧3町の水道事業で利用していた湧水や新たに整備する深井戸を水源にして、浄水場との水量を融通し合い大規模な断水を回避できるよう水源の再構築事業を進めています。令和元年度は、長崎地内の上田調整池の敷地内に深度100mの非常用水源井戸を整備しました。

非常用水源の井戸さく井工事

